

令和元年度 須坂市総合教育会議 議事録

1. 日時：令和2年1月27日（月）16時00分～17時05分

2. 場所：防災活動室1

3. 出席者（敬称略）

三木 正夫 市長

教育委員会：小林雅彦教育長、神戸要子教育長職務代理者、

土屋保男教育委員、二ノ宮邦彦教育委員、水上智恵教育委員

事務局：上原総務部長、関教育次長、滝澤学校教育課長、竹前指導主事、北村指導主事、

中村学校教育課庶務係長、森井学校教育課庶務係

開会 （関教育次長）

1 市長あいさつ

選挙公約の中でも子どもの教育関係については訴えてきたところであり、教育委員会と一緒に子どものため教育のために一生懸命やっていきたい。

2 小林教育長あいさつ

4月から新しい学習指導要領が始まる。英語プログラムは上からの要請だが、もう一つの矢印は幼児教育から積み上がっていくものと思う。

食育の推進事業の発表を文科省で行った。朝食を食べる子を100%にしたいがどうしても100%にならない。子どもたちの姿から親に訴えることも必要。

3 会議事項

（1）少子化に対応した小中学校のあり方について

市長：小学校が地域に大切にされることはいい点。山ノ内や中野もやっているが実態はどうだったのか。

教育長：方法についてはもめているが、人数が減っていることに危機感を持っていた。人数が減っても特認校制度等のやり方はあると思う。

市長：豊丘や仁礼では自然体験の意識があればそれなりのことはできる。

二ノ宮：山間へき地に外から入れることに賛成だが、費用対効果の点ではかなりのマイナス。あと4～5年でそういう状況になるとしたら、ICTを活用した研究を進めていけば、事例を重ねられるのではないかと。一人教員を付けるよりも機械の方が早

い。

土 屋：特認校の制度は興味深いが、豊丘は地域とのかかわりが強いので、PTA 活動とかは心配。学校は地域のものであるとの思いが強いと思う。

水 上：農家先生もいるのでそれを活用できないか。

市 長：子どものコミュニケーション能力を育てるには、ある程度人数がいた方がいいと思う。

教育長：もう一つは小中一貫校の方法で考えられる。

市 長：あり方については早めに検討した方がいい。今年中にある程度検討したい。

(2) 地域と学校とのつながり

神 戸：避難所で、誰が何をする人なのかわかり難かったとの声があった（最初の頃）。地区の区長さんがカギを持っていることも必要。

コミュニティスクールについては保険に入っていた方がいい。

市 長：保険は入った方がいい。検討して欲しい。

二ノ宮：CS はこれだけやっていただいているという事を初めて知った。もっと外に向けて知ってもらった方がいい。面白がってやってくれる人の発掘を含めてやってほしい。東中では信毎の「斜面」欄のチェックをやっているが面白い。いろんな形があっていい。学校によって地域に入っている学校とそうでない学校がある。ぜひ地域に根差してほしい。

土 屋：中学になると減ってしまうのが少し寂しい。募集にもっと力をいれたらどうか。

水 上：森上でCS をやっているが、○付け作業は個人情報もあるので、先生はやって欲しくても、保護者は先生がいいと言う。学校にもよると思う。

北 村：斜面ボランティアは、特に個人情報は問題になっていない。

教育長：支援は多いが、学校は意見を言ってくれるような人を欲しいと感じている。

市 長：もっと PR してほしい。学級通信もすべての学校でホームページに出してほしい。学校への評価についても別に人を発掘したい。

避難所についても大事。

教育長：事前にシミュレーションすることも大事。

(3) その他

①小学校通学用「標準かばん」について

保護者アンケートの結果を報告

新しい試作品を元にして導入することに半数以上の保護者が肯定的であったことから、2021年度から導入することで一致。

以上